

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業の概要◇◇◇

事業名	ほこたブランド推進事業				
事業の概要 (平成29年度～令和元年度)	<p>■農家の所得向上を図るため、付加価値向上、産地の知名度アップ、高級店、有名シェフと連携した事業展開、本市のフラッグシップ的農産物であるメロンについての全国産地との連携によるPR、「メロンの日」を活用した事業展開、消費拡大に向けた指定市場での販売強化を推進する。</p> <p>■農業のイメージアップを図るため、PR動画への若手の起用、登山等人気ウエア企業との協力を得て「かっこいい」農業の実現に向けた取り組みを展開する。</p> <p>■銚田ファン獲得に向けた事業を展開し、銚田市産農産物の愛好家、Uターンによる就農者の確保を図る。</p> <p>■観光農園、直売所、市内飲食店組合等と連携を図り、交流人口の増加や農業から他産業への所得の波及効果を狙う。</p>				
令和元年度実施事業内容	<p>■銚田市地域資源ブランド力向上事業</p> <p>○多種多様な媒体を活用したPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な媒体を活用し、市内JAの指定市場など市産農産物流通先をはじめ、各方面での銚田ファン層の拡大に向け、効率的にメディアPRを実施する。さらに消費者の関心を深化させる情報発信を行う。 <p>○外部専門家を登用したブランド化戦略のアドバイザー等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有名シェフ、高級店舗等での銚田市産農産物を使用したメニューの定番化を促進 ・他自治体との連携イベントを実施し、認知度向上を図る。 <p>○銚田農業の魅力発信・就農意欲の喚起・イメージアップ戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物PR動画、市PR動画を活用したPR ・キュレーションマガジン「Hokotta!」を活用した情報発信と消費動向調査等の実施 <p>○人材育成・担い手確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生等を対象とした食育の実施 <p>○消費拡大・需要喚起事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メロンの日」イベントを継続実施し、認知度の向上を図る。 ・市内イベント(マラソン大会、産業祭等)での特別企画を実施 ・現在の市場での立ち位置を検証するとともに、今後の事業に活用するための分析を実施 				
総事業費(RI)	31,570千円				
うち交付金	15,785千円				
本事業における重要業績評価指標(KPI)	指 標	① 市町村別 農業産出額	② 新規就農者数	③ 市内直売所 入込客数	④ 市農業所得
	目標指標値	732億円	27人	85万人	64億円
	目標年月	令和2年3月末			
本事業における実績値	基準値(H28)	707億円	18人	70万人	58億円
	実績値(RI)	708億円	85人	59万人	68億円
	達成度	96.7%	314.8%	69.4%	106.3%

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業評価シート◇◇◇

事業名		ほこたブランド推進事業
事業の評価	評価 ※どちらか一方の番号に○してください。	1 取組事業がKPI達成に有効であった
		2 取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった
	評価に対する意見・理由	※有効であった場合は良かった点を、有効とは言えない場合は良くなかった点と改善策等を記載してください。
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※いずれか1つの番号に○してください。	1 事業が効果的であったことから、取組みの追加等、更に発展させるべきである（事業拡大）
		2 特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである（事業継続）
		3 事業内容の見直し（改善）を行うべきである
		4 事業実施を中止すべきである
	上記の方針を選んだ理由・意見など	

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業の概要◇◇◇

事業名	鹿行広域DMOプロジェクト(5市連携)				
<p>事業の概要 (平成29年度～ 令和3年度)</p>	<p>FIFAクラブワールドカップ2016で準優勝した鹿島アントラーズと連携した「スポーツ合宿」を柱としたスポーツツーリズムブランドや、農業が盛んな当地域の強みを活かしたグリーンツーリズムブランドを創出するため、鹿行地区版DMOを設立し、国内だけでなくインバウンド向けスポーツ合宿商品、鹿島神宮や水郷特有の観光資源を活用したインバウンド向けフォトウェディング商品及び豊富な農産物を活用した農業体験商品等を造成する。特に、合宿商品では今後増加が見込まれるムスリムに対応するものなどを含め、スポーツ施設や合宿所の増加を図り、ムスリム圏において「海外合宿は日本・鹿行へ」と言われるようプロモーションを推進していく。そのためには、国内外の地勢、政治、経済、旅行先傾向、嗜好等に精通する旅行業務取扱管理者及びマーケティング担当者が、造成した商品を国内のみならず、ムスリム圏をはじめとする海外市場に展開する。その結果、外貨(地域外からのお金)を稼ぐ仕組みが作られるとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化が図られる。</p> <p>また、全国に先駆けた観光地域づくりの取組としては、前述のムスリム対応合宿所の増加のほか、国内で利用者が1千万人を超えるスマホアプリ事業者と連携し、DMO実施事業に対する予約体制を構築するとともに、域内市民の統一コミュニケーションツールの作成準備をしている。</p> <p>また、地域商社の要素として、地域資源を活用した土産物や特産品を開発し、マーケティングの手法を駆使して新規開拓を行い、商品の販売を促進していく。</p>				
<p>令和元年度 実施事業内容</p>	<p>●5市共通【DMO運営補助:29,000千円】以下の事業を実施し、販売経費合計30,546,515円に対して運営補助を行う。</p> <p>○スポーツツーリズム：販売経費23,759,285円 ≪スポーツ合宿誘致≫ サッカーを中心とした団体スポーツプレイヤーをターゲットに、以下の商品を販売する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のスポーツ合宿のオフシーズンに2日以上に渡る大規模(500人以上)のスポーツ大会イベントの開催 ≪海外向けインバウンドスポーツ合宿誘致≫ ASEAN圏のスポーツクラブや中国の街クラブチームをターゲットに、インバウンド向けサッカー大会を企画し、合宿オフシーズンの団体合宿を販売する。 ≪国内向けインバウンドスポーツ合宿誘致≫ 地域外の少年団や街クラブ、大規模大会の事前合宿をターゲットに、大会企画開催、スポーツ合宿プランを販売する。 ≪個人向けスポーツ体験商品≫ 茨城100kウルトラマラソンin鹿行を開催するとともに、参加者に対する宿泊ツアーを販売する。 <p>○グリーンツーリズム：販売経費1,689,634円 ≪農業体験+宿泊のパッケージツアー≫ 日本の食や農業に関心がある東アジアからの観光客をターゲットに、以下の商品を販売する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・らぼっぽ なめがたファーマーズヴィレッジの農業体験と民泊・農泊・ホテルを組み合わせた宿泊パッケージ ・行方市、銚田市を中心にした鹿行地域の農家を活用した農業研修 <p>○エコツーリズム：販売経費5,097,596円 ≪インバウンド向け観光商品≫ 中国を中心に、台湾、香港、タイ、ベトナム等東アジア等からの観光客をターゲットに、以下の商品を販売する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿島神宮、水郷あやめ等を活かした文化体験と海産物・農産物を活かした食事体験 ・鹿行地域の小中学校との文化交流を軸とした教育旅行 ≪日本国内向け観光商品≫ 鹿行地域にて開催される大会と水郷あやめ等地域観光資源を組み合わせたパッケージ商品を販売する。 <p>●鹿嶋市【地元海産物を活用した地消地産の推進及び加工品の検討:150,000円】</p>				
<p>総事業費(RI) ※()は銚田市分</p>	29,300千円(5,800千円)				
<p>うち交付金 ※()は銚田市分</p>	14,650千円(2,900千円)				
<p>本事業における 重要業績評価指標(KPI)</p>	指 標	① 観光入込客数	② スポーツ合宿 参加者数	③ スポーツ合宿を目的 とした訪日外国人数	④ スポーツイベント・ 農業体験後の 民泊の売上げ
	目標指標値	3,199,727人	32,000人	3,050人	23,495,000円
	目標年月	令和4年3月末			
<p>本事業における実績値</p>	基準値(H28)	2,599,727人	—	—	—
	実績値(RI)	2,498,550人	913人	141人	13,852,660円
	達成度	78.1%	2.9%	4.6%	59.0%

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業評価シート◇◇◇

事業名		鹿行広域DMOプロジェクト(5市連携)
事業の評価	評価 ※どちらか一方の番号に○してください。	1 取組事業がKPI達成に有効であった 2 取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった
	評価に対する意見・理由	※有効であった場合は良かった点を、有効とは言えない場合は良くなかった点と改善策等を記載してください。
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※いずれか1つの番号に○してください。	1 事業が効果的であったことから、取組みの追加等、更に発展させるべきである(事業拡大) 2 特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続) 3 事業内容の見直し(改善)を行うべきである 4 事業実施を中止すべきである
	上記の方針を選んだ理由・意見など	

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業の概要◇◇◇

事業名	つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト(県+17市町連携)			
<p>事業の概要 (令和元年度～令和3年度)</p>	<p>【茨城県】 (1)「関係人口」の創出・深化・・・ローカル志向を持つ東京圏の人材を、地域や地域住民との多様な関わりを持ち地域づくりに貢献する「関係人口」として創出するとともに、多様な関わりの機会の受け皿となる地域住民や企業等を県全体で見える化する。 (2) 持続的に「しごと」が生まれる仕組みの構築・・・「関係人口」が本県地域と関わりながら、地域の活性化や地域課題の解決に取り組むことにより、地域で携わる「しごと」が創出される仕組みを構築する。なお、特に人口減少が進んでいる県北地域においては、クリエイティブ人材に対するコミュニティの育成から「しごと」のマッチングまでを一体的に支援する。 上記の取組を持続可能なものとしていくため、民間の地域コーディネーター等を介した「ひと」と「ひと」、「ひと」と「しごと」のつながりが創出される仕組みを構築(中間支援プラットフォームの構築) 【連携市町】 県や中間支援プラットフォームによる東京圏から「関係人口」を呼び込む取組を推進するにあたり、その受け皿となる地域の住民や企業等、地域資源等の掘り起こし発掘や見える化に取り組むとともに、「関係人口」に対して地域と多様に関わる機会を提供する。また、市独自の創業支援施策や中間支援プラットフォームの事業と連携し、「関係人口」が本県内で「しごと」を創出し、定着することを支援する。</p>			
<p>令和元年度 実施事業内容</p>	<p><関係人口の創出・深化> <新たな「しごと」を創出する仕組みの構築> ・多様な関わりの機会を提供【委託料等】¥3,180,760 本市の地域資源と地域内外の人を有機的に結びつけ、チャレンジが継続して起こる状態をつくるため、地域おこし協力隊員等を活用した地域住民や地元高校生と首都圏大学生等との交流を深める枠組みを検討しつつ、「関係人口」の増加を図る。また、地域課題解決のためのアイデアソンの開催などにより、「関係人口」が本市の地域資源の価値を掘り起こす機会を提供し、関係性の深化を図り、地場産業の新たな担い手となることを後押ししていく。</p>			
<p>総事業費(RI) ※()は銚田市分</p>	<p>282,437千円(3,180千円)</p>			
<p>うち交付金 ※()は銚田市分</p>	<p>141,218千円(1,590千円)</p>			
<p>本事業における 重要業績評価指標(KPI)</p>	<p>指 標</p>	<p>① 移住者数・ 二地域居住者数</p>	<p>② この事業により創出 される「関係人口」数</p>	<p>③ 東京圏のフリーランス等による 新たな「しごと」の創出件数</p>
	<p>目標指標値</p>	<p>442人</p>	<p>17,970人</p>	<p>45件</p>
	<p>目標年月</p>	<p>令和4年3月末</p>		
<p>本事業における実績値</p>	<p>基準値(H30)</p>	<p>202人</p>	<p>10,770人</p>	<p>0件</p>
	<p>実績値(RI)</p>	<p>298人</p>	<p>12,853人</p>	<p>15件</p>
	<p>達成度</p>	<p>67.4%</p>	<p>71.5%</p>	<p>33.3%</p>

◇◇◇地方創生推進交付金に係る事業評価シート◇◇◇

事業名		つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト(県+17市町連携)
事業の評価	評価 ※どちらか一方の番号に○してください。	1 取組事業がKPI達成に有効であった
		2 取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった
	評価に対する意見・理由	※有効であった場合は良かった点を、有効とは言えない場合は良くなかった点と改善策等を記載してください。
実績値を踏まえた事業の今後について	今後の方針 ※いずれか1つの番号に○してください。	1 事業が効果的であったことから、取組みの追加等、更に発展させるべきである(事業拡大)
		2 特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続)
		3 事業内容の見直し(改善)を行うべきである
		4 事業実施を中止すべきである
	上記の方針を選んだ理由・意見など	